

第2回思川開発事業モニタリング部会での指摘事項と対応方針

資料 4

項目	主な意見・助言	対応方針	概要版該当ページ
地下水	南摩ダム completion によって地下水の流れが変化し、ダム下流の南摩川の水量に変化が生じる可能性があることから、南摩川の水量に関するモニタリングを行うことが望ましい。	南摩川の地下水については、ダムの建設前後でモニタリングをしている。こちらについては、地下水モニタリング委員会で議論していきたい。	-
地下水	導水路トンネル工事の影響を評価するため、トンネル切羽と地下水位の観測孔との直線距離を明記することが望ましい。	導水路トンネル工事の影響を評価するため、トンネル切羽と地下水位の観測孔との直線距離を表記した。	P27-28
水質	水質調査結果に異常値が生じた場合は、調査日とその直近の天候や、調査日付近での河川工事の実施有無等を確認するなど、その原因を究明しておくことが望ましい。	乙女大橋地点においてSSが高かった調査は令和6年8月19日に採水されている。令和6年には、乙女大橋の直上流（小山市乙女・網戸・粟宮地内）において中水敷の竹木の伐採及び掘削工事が実施されていたことから、その工事影響によってSSが高かったと考えられる。	P19
水質	導水路管内に水を長期間滞留させた場合、溶存酸素の減少や硫化水素の発生等が懸念されるため、その対処方法の検討が必要である。	長期間導水・送水を使用しない場合は、南摩揚水機場より送水して導水路管内に注水し水位を上げ、その水を南摩注水工から貯水池に落として循環させる等、状況に応じて対策を検討していきたい。	-
水質・地下水	補足調査として実施している河川水温調査については、モニタリング調査計画の一部であることが分かるように、当該計画へ追記することが望ましい。	モニタリング調査計画に追記するとともに、モニタリング調査結果に資料を追加した。	P15
モニタリング計画（環境保全地）	環境保全地について、地元行政に対してもモニタリング調査期間以降の持続的な維持管理方法の検討を求める。	環境保全地は、工事により影響を受ける希少な動植物の保全を目的として整備を行っている。モニタリング期間以降は、環境学習の場等として活用いただけるよう、関係機関との調整を図っていきたい。	P40-43
モニタリング計画（堆砂）	黒川及び大芦川取水放流工における土砂移動に関するモニタリングは、早期に開始することが望ましい。	現在、土砂流動に関する調査は行っていないが、取水放流工部は満砂となっており、今後流れてくる土石は取水放流工部を流下して下流に流れていくものと推測している。仮に、取水部について掘削するとしても、堰下流に置土して土砂還元できるようにするなど、関係機関と調整する。なお、定期的に堰上流の状況をカメラ撮影する等により、状況をモニタリングし、堰下流に土石が流下しているか確認していく。	-
モニタリング計画（堆砂）	固定堰上流での堆積土砂の撤去に当たっては、コスト縮減と土砂の連続性の観点から、河川管理者や下流の堰管理者と連携しつつ、土砂還元を活用することが望ましい。	現在、土砂流動に関する調査は行っていないが、取水放流工部は満砂となっており、今後流れてくる土石は取水放流工部を流下して下流に流れていくものと推測している。仮に、取水部について掘削するとしても、堰下流に置土して土砂還元できるようにするなど、関係機関と調整する。なお、定期的に堰上流の状況をカメラ撮影する等により、状況をモニタリングし、堰下流に土石が流下しているか確認していく。	-
モニタリング計画（水源地域動態）	南摩ダム完成後は、地域と連携しつつ、南摩ダムを観光資源として活用することが望ましい。	南摩ダム水源地域ビジョン策定委員会を設立し、ダム湖及びその周辺と、ダム下流の南摩川沿川地域の活性化に向けた基本的な考え方や進め方を審議している。	P49
モニタリング計画（相調査）	環境保全地調査実施時には、西ノ入沢川周辺での底生動物・魚類調査を行うことが望ましい。	令和7年度に西ノ入沢川で魚類及び底生動物調査を実施し、モニタリング調査結果に資料を追加した。	P44-45